

安心の認定施設。 実績も、そこにあります。



2013年12月9日に当院に導入されたNBIシステム。3回にわたり、「中央林間病院の内視鏡」について連載しています。第2回目の今回は、「施設認定」と「内視鏡実績」について、お話したいと思います。



当院は、大和市で最初に「日本消化器内視鏡学会」と「日本大腸肛門病学会」の認定を受けた施設です！

日本内視鏡学会は、1959年に、「日本胃カメラ学会」として設立されました（1973年に「日本消化器内視鏡学会」と名称変更）。学会では1962年に早期胃がんの肉眼分類が作成され、診断学の確立が業績としてあげられます。全世界に対して、指導的役割を持つ学会なのです。

日本大腸肛門病学会は1940年に「日本直腸肛門病学会」として創立されました。1967年に現在の名称に変更されていますが、大腸肛門病学の進歩発展に古くから寄与しています。

比較的大きな病院や大学病院の関連施設が多い中、当院は2012年に認定されました。

「認定施設」って言われても、ちょっとピンと来ない。

ほかと違ったところがあるの？



認定施設となるためには、それぞれの「認定基準」があります。

日本消化器内視鏡学会指導施設

- 30平方メートル以上の独立した内視鏡検査室が設置され、年間検査数として上部（胃・十二指腸）1200件以上、下部（大腸）250件以上の検査を行っていること。
- 指導医1名以上が勤務、専門医2名以上が常勤し、十分な教育体制がとられていること。
- 内視鏡検査室専属スタッフがおり、病理診断を依頼することが出来る環境が整備されていること。

大腸肛門病学会認定施設

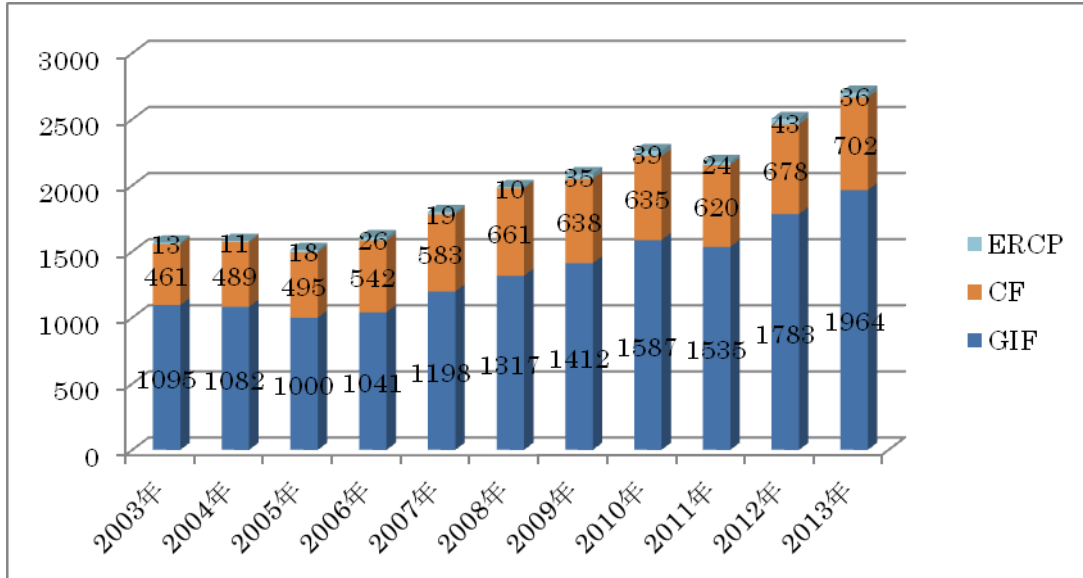
- 大腸肛門病を扱う病院や医院で、年間の該当検査件数が500以上又は大腸肛門病手術数が年間100例以上行っている施設であること。
- 指導医1名以上が常勤し指導体制がとられ、病歴の記載や整理がきちんと行われていること。



実際に、どのくらい実施しているのか・・・

グラフにまとめてみました。

*** 中央林間病院 内視鏡検査実施件数 ***



※GIF＝上部消化管内視鏡、CF＝下部消化管内視鏡、ERCP＝内視鏡的逆行性胆道膵管造影

※2013年データは、12月24日現在の統計

年々増えているのが分かりやすいわ！

内視鏡専門の先生がいるのも、安心できそうね。



上部（胃・十二指腸）内視鏡検査は、個人差もありますが10分程度で終了します。「胃カメラは、なんか怖いから・・・」と言う方も多いのですが、疾病の早期発見につながる重要な検査の一つです。患者さまが安心して検査を受けられるよう、さまざまな職種で情報を共有する場も設けています。今回のNBIシステム導入で、より早く、検査時の負担も少なく内視鏡が受けられるようになりました。無痛（麻酔）で行うことも出来ます。

診断、治療のみでなく、検診も行っています。気になることがあれば、一度ぜひご相談下さい。



次回は「内視鏡専門医・指導医」についてお話しします。